

[趣旨説明]



日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部
丸山 千歌

○金庭 では、講演にまいります。本シンポジウムコーディネーターは、日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部、丸山千歌先生です。では、丸山先生にマイクをお預けします。

趣旨説明

○丸山 丸山でございます。本日は週末の大切な時間、この会場、企画にお越しくださいませ、ありがとうございます。

本日は、「大学の国際化と大学評価 日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか」というテーマでシンポジウムの企画を考えたのですが、本学の日本語教育センターは、今、開会の挨拶を頂戴いたしました松田先生、それから奥村先生をはじめ、いろいろなお立場の先生方に日本語教育センター運営委員会のメンバーとしてご助言いただき、支えられながら展開しております。

先ほど奥村先生が言ってくださったように、立教の中の日本語教育は、1年1年、状況が変わってきていますが、日本語教育センターとしては、その中で私たちがこれから向かうべき方向を位置づけながら、意味づけをしながら前に進んでいきたいという思いがあります。また、小さな、そして2011年からの新しい組織なので、そういったことを評価プログラムという手法を使いながら前に進めることができるのではないかと考えて、本日の企画を考えました。

早速ですが、基調講演を始めたいと思います。テーマは「大学の国際化と大学評価」、「日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか」で、長尾先生にご登壇いただきます。

簡単に本日講演くださいます長尾先生をご紹介します。長尾先生は、一橋大学で博士課程を学ばれた後、国際連合貿易開発会議経済問題担当官、それから、笹川平和財団主任主席研究員をおつとめになり、広島大学、国際基督教大学などでご教鞭をとられた後、現在は東京大学の大学院でご教鞭をとられています。ご専門は開発学、教育開発、それから事業評価、学校評価で、現職では、地球レベルで持続可能な開発を担う国際的人材育成に携わっていらっしゃいます。それでは、長尾先生、どうぞよろしくお願いいたします。

